

中外雑記

曹洞

斎藤監院も被災地へ

- ▽大本山総持寺の斎藤信義監院は十七日、両大本山護持委員会並びに両大本山連絡会議の終了後、兵庫県の被災寺院を見舞うため阪神へ向かった

真言

河野氏ら九人が炊き出し

- 高野山** 河野良文大安寺副住職（奈良市大安寺町）の呼びかけで和歌山・奈良・大阪の青年教師や在家の人たち有志九人が十七日、神戸市兵庫区の西室院（田中昭寛住職）周辺の被災者に粕汁と甘酒五百人分の炊き出しを行なった

▽河野氏らは宗団の災害救援本部が統括しているボランティアに参加した際、「物資のある所とない所の差が大きい」ことを知って炊き出しをすることを決めたという。一回の炊き出しでは不十分との認識は抱いているようだが、「とにかく行動してみて、これからのボランティアの方向性をつかみたい」と話している。僧侶としてのボランティアは“心のケア”を中心に据えなければならないとの意見に対しては、「現地に出向いて肌で感じて、方向性をつかんでいくしかないのでは。私自身もまだ答えを出せず、これからもできる範囲でしか動きませんが」と語った。

被災地の報告を行なう

- 東寺真言宗** 同宗阪神大震災緊急対策会議では、二十日に会合を東寺洛南会館で開催した。一月三十一日と二月一日に藤原義章宗務総長、松下隆洪副議長、橋本尚信庶務部長が現地見舞いに行ったことの報告を受けた。引き続き三月九日に、再度被災寺院へ見舞いに出向くことになった

▽藤原宗務総長らの報告は次のとおり

▽一月三十一日、実相寺＝頼富本宏住職と夫人に会う。緊急物資の薬や下着を一括お預けし、配布を依頼する。同寺は、本堂の瓦が殆ど全部落下し、屋根の下地も相当に破損。ビニールシートですっぽりと覆いが掛けられている。建物もいたる所で破損し、壁がざっくりと割れている個所がある。本堂正面のガラスは全損しており、戸も歪んでいる。この本堂は、内陣と外陣の境が二本、屋根の小屋組みまで通っていたので倒壊を免れたもようである。檀家で十二人が亡くなり、一時遺体を安置していた。家族にけが人はなく、こどもが落下物でこぶをつくった

▽西代寺（避難先の立江幼稚園）＝高木寶瑞住職と奥様にお会いする。奥様の縁戚の幼稚園の管理人部屋を間借りしている。最小限の生活必需品は縁者の好意で何とかなっている。食事は、被災後二週間はおにぎりとパンだけであった。風呂は檀家から誘いがあるが、自分たちだけ入るわけにはいかず断わっている、と。地震直後、寺に行くと建物はつぶれており、隣のゴム会社の建物からコンクリートブロック（三十×十五センチが二十から三十個たたき

つけられていた。つぶれた建物の下からコンコンと音がするので、前の郵便局の局員が六時間後に老僧を助け出してくれた。祖母は落ちてきたコンクリートの下あたりに寝ていて死亡した。コンクリートを取り除いての救出は大変であった。高木住職の居宅も全焼。高木住職は毎日、四十分かけて寺跡まで歩いて、心配して訪ねてくれる信者さんと情報交換したり、被害のなかった檀家の月参りをして、とにかく元気で頑張るよう自分に鞭打っているとのこと。檀家二十一人が死亡

▽延命寺＝住職は不在のため、老僧と住職夫人と幼子に挨拶する。本堂・庫裡が一体の建物で、昨年落慶したばかり。さほど被害がないもようで、鴨居と柱がずれたり、壁の一部がはがれたりし個所が多少ある程度。家具類は相当に散乱していた

▽明照寺＝避難先の蓮池小学校へ行く。校舎内はクレゾールの匂いが鼻をつき、劣悪な環境。八十過ぎの祖母が、冷たい床の上で布団にくるまって寝ていた。住職夫妻は、倒壊した寺に行っているとのこと、そちらに向かう。榎本博一住職と奥様に会う。建物は柱が辛うじて建っているが、ほぼ壊滅状態。また、前と隣の建物もいつ崩れ落ちるか分からない状態で、寺は立ち入り禁止令が出ているとのこと。そんな中で夫妻は荷物の整理をしていた

▽霊山院＝衣笠敬文住職、奥様と副住職にお会いする。副住職夫人と孫は夫人の実家に避難して不在。本堂は何か持ちこたえているが、破損がかなり激しく、仏像、仏具、什物類もかなり破損している。隣接の庫裏（一階・客間、二階・副住職住まい）は三十度くらいに傾いて、隣の建物に支えられて倒壊はしなかったが、ほぼ壊滅状態である。家具類も手のほどこしようがないくらい破損散乱している。孫たちは、数秒の差で家具の下敷きにならずに助けることができた。住職らは、車に寝泊まりして町内の救援に尽力しているが、体力消耗を考え、数日前から危険を承知で本堂脇の台所で寝るようにしたとのこと。また、やっと自坊の整理をする時間がもてるようになったとも。とにかく元気で頑張らねばという意気込みが印象的だった。

自らを後、人に尽くす住職

●大覚寺派 淡路教区の興久寺（兵庫県津名郡北淡町富島二、禰宜田龍真住職）は、兵庫県南部地震で本堂が倒壊したにもかかわらず、禰宜田住職は、車で寝泊まりしながら淡路だけでなく、神戸市にも入ってボランティア活動をしている。このことが、だんだんと知られるに至って、被災寺院の住職にも励みとなっている

▽大阪府高槻市地蔵院（土屋博秀住職）でも、地震の被害が大きいことが、宗務庁の職員の訪問で判明した。十七日、同寺を訪れた二人の宗務庁職員は、同寺の本堂、庫裡の激しい被害に驚かされた。倒壊は免れたものの、内部が破壊され、壁が崩れ落ち、住職の家族は居住にも不便をきたしていると報告された

▽岡田高功総長は、兵庫県南部地震発生の十七日、神戸ポートピアホテルで閉じこめられて、翌朝午前七時に脱出。その被害の大きさに、ふと小学校二年生の時、現在の北朝鮮の最北から韓国へ向かって逃避した厳しい体験がよぎったという。ロシア兵に脅されながら避難民となってトボトボと南へ南へと向かった恐怖の体験は終生忘れられなく、今回の地震でもホテルで閉じこめられた四十八時間を人生の試練ととらえ、被災した人々への熱い思いに、復興の早からんことを祈っている

▽宗派と華道の両輪で、それぞれの義援金が募集されている。特に、神戸地方は華道の門下生が多く、被害の人々も甚大である

▽神戸司所の吉田泰巳司所長（華道会議議長）も、神戸市役所に近い、事務所の入っているビルが使用不可能となり、尼崎の自宅に事務所を臨時に移して仕事に励んでいる。尼崎の自宅も倒壊は免れたものの内部の破損は大きく、不便をきたしているそうだが、持ち前のバイタリティーで明るくぐんぐんと嵯峨御流を引っ張りあげている

▽金田義幸庶務部長も「大震災は自然の猛威をまざまざと見せられ、人間の無力を知らされ、価値観を変えられました。亡き五千余の人々への冥福を祈り、二十万の被災者が一刻も早く救われますように」と、思う。奥川洪観財務部長は、神戸市北区の出身。自坊の竹林寺は塀の瓦が落ち、境内にひびが入り、室内は相当に破壊されたが、「息子が危険なところだけを補修してからボランティアに神戸市内に入ってくれている。知人にもお寺を開放するから使ってくれと呼びかけてきた」と。

広島

28日に災害義援布教大会

▽備後教区布教団（団長・徳本樹界教務所長）は、二十八日午前十時から、福山市東町の備後会館で、災害義援布教大会を開催する。布教使十人が連続で法話を語り、この日の懇志は全て本山の対策委員会に届ける。また同教区は教区内寺院に呼びかけて、再度救援物資の調達を行なう。今回は、西宮市の仮設住宅に入居する被災者への生活用品セットなどを用意し、三月初めには届けるように準備する。

浄土

西宮西蓮寺で物故者慰霊

●**浄土宗** 神戸市や西宮市、芦屋市などに壊滅的な打撃を与えた兵庫県南部地震から一カ月。二月十七日付で死者は五千三百七十八人に及んでいる。今なお、避難生活をしている人々は二十一万人にものぼっている。徐々に復興の兆しを見せているものの、住宅を失った人々、職場を失った人々、あるいは病気に悩む人々、学校の問題、育児のこと、高齢者の保護など様々な問題を抱えながら不自由な生活を強いられている。また浄土宗寺院においても、伊藤省三西福寺住職が死亡したほか、本堂や庫裡の全壊をはじめ、半壊や墓地の倒壊など被災寺院は兵庫教区、大阪教区を中心に百六十カ寺にも及んでいる。そうした被害の中、本堂が全壊した貴田康住兵庫教区教区長の自坊・西蓮寺で十八日、震災で死亡した人々の霊を慰める追悼法要が中村康隆浄土門主の親修で執り行なわれた＝**写真上**

【**写真は省略**】。法要は本堂が全壊しているため、倒壊した本堂から取り出した本尊・阿弥陀如来を庫裡の一室に安置して執り行なわれた。阿弥陀如来は激しかった地震にもかかわらず、足と手の一部を破損した程度にとどまったが、足の破損で立てることができず、弥陀三尊を床の間に寝かせての法要だった。法要には、兵庫教区の被災寺院の住職らのほか、宗務庁から山田瑞祥総務局長、江口定信社会局長、総本山知恩院から中野玄光庶務部長、梶原隆也公室長、地元神戸市東灘区に自坊・真光寺のある藤井真隆財務部長、また近畿各教区の当麻信章、吉仲良寛、松尾昭道の各教区長らが駆けつけたほか、曾和義雄宗議会議員、浅野正運組長ら兵庫教区各組長などの教区役職者らも姿を見せ、約四十人が参列した。法要では、中村門主を導師に阿弥陀経、お念仏を唱え、震災による物故者五千三百七十八人の霊を慰めた。法要のあと、中村門主は「思いもよらない大きな被害に、何とお見舞いの言葉を述べてよいのか分からない。み仏に生かされながら、自分の道も知らずにぬくぬくとしていたことを恥じ、改めて往生極楽の道を選び採られた宗祖が、戦乱の世にあって選択の中に意味を見いだされた心を見つめている。檀信徒の多くも被害に遭われ、復興は長い年月を要すると思うが、一宗挙げて、復興のための方策を考え、共に手を携えて復興に力を尽くそうとしている。くじけることなく本来の道にいそしまれ、被災檀信徒の導きをお願いしたい。すぐにお見舞いに飛んでくるべきだったが、ようやく今日、亡くなった方々の冥福をお祈りすることができた。災害の中で、お念仏が大きく花開くよう、皆様の精進をお願いしたい」と、被災寺院に対するお見舞いの言葉を述べた。

避難生活の被災者見舞う

▽震災物故者慰霊法要のあと中村門主は、同じ西宮市内で、庫裡などに被害を受けながらも、かろうじて災害を免れた本堂が約三十人の被災者の避難所となっている豊乗寺（知足善晋住職）を訪問、本堂で避難生活をしている被災者を見舞った。豊乗寺では折しも同日、地震で亡くなった三人の檀信徒の合同葬を執り行なっていたが、中村門

主は、三人の遺影を前に、阿弥陀経とお念仏を唱え、三人の極楽往生を祈った。中村門主は、遺族や被災者に向かって、「かつて関東大震災の時に、静岡県清水市にあった私の自坊では、本堂が倒壊を免れ、関東から被災者の方々が船で清水港まで来られ、本堂や庫裡に一ヵ月ほど避難生活しておられたことを思い出す。知事や市長、町長なども寺に見えて、炊き出しを行なうなど被災者の方々を励ましておられた。この一ヵ月の暮らしは大変だったことと思う。近親者が亡くなられた方は取り返しがつかないが、幸い助かり、避難生活をされている方々には、身体を大切にしていきたい。お釈迦様は、この娑婆は苦勞が絶えないが、それでも人生を全うすることが大切だと述べられている。皆様もみ仏のみ手に守られていることを信じ、力強く復興に頑張ってもらいたい。お元気な皆様にお会いできて、嬉しく思っている」と励ました＝写真下【写真は省略】。同門主のお念仏と励ましの言葉に、本堂の遺族や被災者らは目に涙を浮かべながら合掌し、門主の言葉に耳を傾けた。

法華

被災寺院へ予算措置も

●**本門佛立宗** 兵庫県南部地震（阪神大震災）の被害寺院への緊急援助予算措置が小山日誠内局で検討されている▽対策本部で受け付けている義援金の振込先は第一勧業銀行西陣支店の普通預金口座一二八一〇五八番「本門佛立宗宗務本庁救援対策本部」。なお、二月十六日現在までに対策本部に届いている義援金は一億二千四百四十一万六千四百二十九円

▽小山宗務総長は一月二十四日、兵庫県南部地震の被災各寺院を見舞った

▽神戸市兵庫区の本法寺（速水日信住職）は高台にあるため、山下の家々を焼き尽くした大火災の類焼からは幸いにも免れた。しかし鉄筋コンクリート製の本堂は至るところが大きく破損する被害を受けた

▽西宮市津門の廣宣寺（山内日開住職）は既報のように本堂の天井が落下し、西側に大きく傾いた。本堂は危険なため解体する。御本尊と三祖尊像は無事だったため、御宝前とともに信徒会館三階に遷座した。地震発生時には寒参詣の受け付けや御供養調整のため信徒十人ほどが同寺庫裡などで準備をしていたが、幸い怪我はなかった。昭和六年に建立された廣宣寺本堂は老朽化に伴う再建十年計画の今年が二年目にあたっていたが、そこへ今回の被災となった。地震のあった日の朝はお通夜のため本堂と西控室に信徒と親戚が居り数人が軽い怪我を負った。山内住職は「寒参詣の信徒さんが本堂に入る前だったので惨事にならずに済みました」と語っていた。同寺の地震以前の寒参詣者は二百五十人ほどいた

▽尼崎市大庄の本円寺（伊藤日学住職）は本堂の屋根瓦や壁が崩れ落ちる被害。建物自体は幸い修復できる状態である

▽神戸市垂水区の日法寺（奥山日明住職）の建物は軽微な被害で済んだ

▽大火災が発生した神戸市長田区の大法寺（谷川日恩住職）は本堂や信徒会館が激しい揺れで被害を受けたが、類焼は免れた。周辺の木造家屋は軒並み倒壊している

▽神戸市灘区の正法寺（福岡清量住職）は本堂が大きく傾き倒壊の恐れがあるため解体されることになった

▽神戸市須磨区の香風寺（福岡日雙住職）は屋根瓦が落下したほか屋内も階段などが破損し大きな被害となった

▽宝塚市梅野町の妙宝寺（野口清照住職）は御宝前の道具類が倒れるなどした

▽神戸市兵庫区の佛立寺（加藤日類住職）は被災寺院の中では一番被害が少なかったため、救援物資の集積所となり、宗務本庁からトラックで物資が送られている。

実業

炊き出しボランティア

●**開明社青年会** 本願寺派御用達業者で構成する同会（宇佐見直秀会長、宇佐見松鶴堂取締役）は、二十六日午後零時から同三時まで兵庫県芦屋市市役所南館横駐車場で炊き出しを行なう。同会では地震発生直後から会議を重ね、現地の状況をふまえて、本願寺派神戸別院の上原泰行副輪番と相談して決定したもの。当日は同会会員二十五人が現地入りする。「一人でも多くの人に温かいものを食べてもらいたい」と、当日用意される炊き出しは、きつねうどん千人分、お茶千人分、白味噌汁三百人分、京銘菓・松風三百人分、善哉三百人分。問い合わせは宇佐見松鶴堂へ。電話＝京都〇七五（三七一）一五九三。

臨黄

小遣いを被災者義援金に

●**相国寺派** ▽全国に大きなショックを与えた兵庫県南部地震。樋口月堂慈雲院住職が園長を務める児童福祉施設・和敬学園でも「我々に今できることを」と生徒達が被災者救援の募金を実施。小遣いを出し合って集まった二万七千円を職員による義援金と共に義援金窓口に寄託した。

●**妙心寺派** 第八十七次定期宗議会が二十一日から四日間の日程で妙心寺宗務本所に招集された。松山寛恵管長臨席のもと厳修された開会式では般若心経三巻、消災咒祈祷回向のあと、大悲咒一卷を諷経し兵庫県南部地震被災物故者を追悼。平成六年度通常会計補正予算案でも阪神大震災義援金が計上されたが、地震被災者対策が今次宗議会の焦点になりそう

▽兵庫県南部地震被災者救援対策本部が組織するボランティア活動が二十日から、被災地の神戸で始まった。十七日付で一派に送られたボランティア募集の呼びかけに応えた有志が、祥福寺を拠点に被災者のための炊き出しなどを行なっているもの。第一陣は静岡西教区の四人で、本所職員のサポートを受けて二十日から二十二日までＪＲ兵庫駅頭でぜんざいの炊き出しに当たった。二十一日現在、一グループ五人前後で四グループ程度が対策本部と連絡をとって参加の準備をしているもよう。本部としては各グループ交代で彼岸頃まで継続する方針だ。詳細は続報

真宗

共に歩む宗門を心に決め

●**本願寺派** 「もっと早くにお見舞いに来てさせて頂くべきだったのですが、かえって皆様のご迷惑になってはと思いまして」－十七日、兵庫県南部地震で甚大な被害を受けた兵庫教区内の被災寺院を見舞った大谷光真門主は、こう言って震災発生から一カ月を経てようやく訪れることができた被災寺院の住職らに詫びた

▽新聞、テレビなどマスコミを通じて今回の震災の惨状を見聞していた光真門主は、早くから被災寺院への見舞いを希望していたというが、門主の出向となると様々な準備が必要で、ましてや危険が伴う被災地へ足を踏み入れるとなると周囲としてはなおさら慎重にならざるを得なかったようだ

▽今回の見舞いは、四十カ寺余りの寺院が本堂を全壊、全焼するなど被害の程度が甚大であることなどを考慮。随行員の数も最小限にとどめ、武野以徳総務、片山晃英内事部長、長岡晃澄社会部長、長屋善洋伝道部賛事、奇山明庶務部賛事、本庄然同主事の六人が同行

▽また、従来ならば門主の地方出向には新幹線や特急のグリーン車が使用されていたが今回はＪＲ新快速を利用。朝の七時台の最も混み合う車内で門主は通勤客に交じって吊り革に揺られながら被災地へと向かったそう

▽尼崎市の阪神南組西教寺（生嶋俊興住職）を皮切りに、この日一日で門主が直接足を運んで住職らを見舞った寺院は十八カ寺。当初は車中から見舞う予定の寺院もあったが、住職や寺族が瓦礫の前に立って一行を待つ姿を見つ

けると急遽車を止め、懇ろに見舞いの言葉をかけた

▽今回の門主一行の見舞いには、教区から土基謙教教務所長、田中法劔教区会議長、山本宣昭組長会長や各組組長らが同行したが、これら関係者は殆どが被災者。また、各々の寺院で当該住職と共に一行を迎えた住職らも程度の差こそあれその殆どは被災していた

▽紺の防寒ジャンパーに身を包んだ門主を無惨にも崩れさり瓦礫の山と化した自らの“法城”へと案内し切々とした表情と口調でその惨状を説明していた各被災寺院の住職らの思いを門主ら一行はどう受け止めたのだろうか。火災による被災が甚だしかった長田区内の全焼寺院の住職や坊守が見せた涙の意味をどうくみ取ったのだろうか

▽今後、神戸市等は復興に当たって「災害に強い町づくり」を基盤に据えての都市計画を構想していくことになり、大規模な区画整理に伴い元の場所に寺院を再興できるかどうかは微妙。防火対策から木造の本堂の再建はかなり困難であるともいわれ、被災寺院の住職からは「もう寺をやめたい」との呟きも漏れているという

▽この窮状を宗門のトップに立つ門主はどう感じ取ったのだろうか...。「実際に被災地へ来てみてその惨状がどれほどのものか改めて分かりました。外から見ていただけではなかなか皆様のご苦勞をくみ取らせて頂くことが難しいことであると思います」と実際に惨状を見聞した印象を語った門主は「共に歩む宗門であることを心に決めてこれからも皆様と共に歩ませて頂きたい」との言葉を残して被災地を後にした

▽なお、今回の見舞いで門主は、兵庫教区の災害対策本部が設置されている神戸市中央区の教務所・別院の仮事務所を訪問。武野総務が宗派の義援金一億円を土基教務所長に手渡した＝写真【写真は省略】。

被災地への対応

●**大谷派** 十三日現在の兵庫県南部地震に対する宗門の対応は次の通り。【義援金】郵便局に口座を開設して全国の各寺、教会へ勧募

▽本山御影堂、阿弥陀堂、参拝接待所、同朋会館、大谷祖廟事務所、全国の教務所、別院に義援金箱を設置。【救援活動】八日から同朋会館に被災者を受け入れ

▽被災した子どもたちを高倉幼稚園で無料保育

▽全国の別院、寺院、教会で被災者の受け入れを行なえるように宗派でとりまとめて大阪府を窓口被災地へ連絡

▽北米・ハワイ開教区の各監督部に義援金窓口を設置

▽大谷スカウト名古屋支部が街頭募金

▽大谷派坊守連盟、社団法人大谷保育協会が見舞金、義援金口座を開設【任意団体のボランティア活動】難波別院＝本堂で被災者の遺骨を無料預かり。被災者への入浴サービス。ガールスカウト大阪五十五団（同別院所属）が三月中に児童の文具をYMCAを通じ搬送

▽大阪教区第六組円通寺所属のボーイスカウト大阪十一団とガールスカウト大阪六十二団の十数人が御影中学を中心に毎日ボランティア

▽大阪教区第一組徳成寺所属ガールスカウト大阪十団が「大阪みおつくしブロック」と連携をとって、尼崎市役所への救援物資の仕分け作業

▽大阪教区第一組明福寺所属ボーイスカウト十八団、大谷派児童教化連盟、真宗大谷派全国仏教青年同盟、大谷大学仏教青年同盟の有志が芦屋市の本願寺派西方寺と近くの公園に設置された風呂で入浴の手伝い

▽山陽教区坊守会が真宗大谷派全国仏教青年同盟の協力から神戸市長田区の小学校で七百人分のぜんざいを炊き出し

▽山陽教区の浄泉寺では被災差別部落への義援金を受け付け

▽同朋大学の有志学生百余人が難波別院で宿泊し、被災した障害者、高齢者の救援、介護

▽高山教区第一組を中心に物資の供給

▽このほか、被災した神戸市内の寺院では家屋の倒壊などから困窮している門徒らのためにと托鉢に回る住職もいるという

義援金二千万円超す見込み

●**仏光寺派** 宗門各寺へ募っていた兵庫県南部地震の義援金が十五日、締め切られた。二十日現在で寄せられた善意は一千九百三十七万二千五百円。まだ、少しずつ届いており、梨本哲雄宗務総長によると二千万円を超えるのは間違いないという。これに本末共済会からの見舞金を合わせ、三月上旬に被災寺院へ手渡す。また、梨本内局では門徒の被害状況も調査しており、門徒への対応も検討中だ

▽兵庫県南部地震でねじれた本山大師堂と阿弥陀堂の渡り廊下の柱の復旧工事は四月二日の継職式以降に取りかかる見通し